



会報

発行年月日 平成19年5月1日
発行人 会長 青木 宏
編集者 同窓会会報委員
日本指圧専門学校同窓会
東京都文京区小石川2-15-6
〒112-0002 TEL 03-3813-7354
題字 山内 貞四郎

「一番勉強した頃」

日本指圧専門学校同窓会会長

青木 宏



学校生活を振り返ってみて、どの時期一番勉強したか、自分に問うてみたい。

答は、文句なく、日本指圧学校時代だ。

小学校時代、姉二人はすでに嫁いでおり、長兄は、無尽会社（後の相互銀行）に勤務し、結婚して私たちと同居していた。二番目の兄は、札幌師範を出て、小学校の教師だったが、軍隊にとられて家には居なかった。すぐ上の兄は、私より七歳年上で、旧制の中学に在学する優等生。母は、若くして未亡人となり、健在。そんな中で、未っ子の私はまかせていたのか、小学校に入ってから教わることは、ほとんど知っていることばかり。学校で知ることの喜びを味わった記憶はない。

中学校時代は、結構、小学校時代の尾を引いていたと思う。高校に入ると、そうはいかない。ことに、英語は予習をしていかないと、当てられるとお手上げだ。英和辞典を引きまくり、教科書に書き込んでいったものだ。英語はトップクラスに追いついたのはよかったのだが、それにすっかり時間を取られて、他の科目、ことに理数科目がめっきり悪くなってしまった。あげくのはて、国立大学の入試に対応出来なくなつて、一浪して授業料の一番安かつた私立大学の英語学科に入学してしまつた。得意だつたはずの英語を専攻したはずなのに、北海道から出てきた私は、クラスでも下位の成績で、更に悪いことに、大学の勉強はしなかつた。多少やつたといえ、ワングル部で、あまり有名じゃない山を歩いていたらいい。

その点、四十近くなってサラリーマンをしながら、日本指圧学校に一九七五年、十九期生として入学し、以来二年間私にとつて全く新しい分野だけに、必死になつて勉強した。まず、講義をよく聞いて、よくノートをとつた。今と違って、プリントも

少ない時代で、先生が板書したものでなく、大切なことは極力ノートするようにした。

私としたことが、この二年間は過去問題集は入手したが、参考書は一斉、買わなかつた。普段私は、自分で読む（読める）以上の本を買っけりあるのだが、もつぱら教科書とノートに頼つたことが、私にとつてよかったのではないかと思う。

私たちの時代は、とかく学科試験の点数がいい生徒の指圧の腕はよくなく、成績が目立たない生徒のほうが腕がいいといわれたものだ。「誰が言った」と問われれば、私が多少点数がいいことを鼻にかけ、腕のいい同級生のことを揶揄していたにすぎないとするれば、鼻持ちならぬと言われても仕方ない。

時代が変わり、国家試験もめつきり難しくなつていたので、今の学生には自覚してしっかり勉強してもらわねばならない。

この会報が出る頃には、二〇〇七年の国試の結果は判明しているだろうが、健闘を祈る。

因泥文彦先生

ハワイ愛泉治療道院・愛泉指圧学校創立30周年記念特集

日本指圧学校(現日本指圧専門学校)の15期卒業生、因泥文彦先生がハワイに渡り、今年で30周年をお迎えになりました。同窓会会報誌28号では、因泥先生の生い立ちから現在に至るまでの軌跡を「因泥文彦物語」として会報編集局からお送りいたします。

まず、因泥先生のプロフィールをご紹介します。
プロフィール
因泥文彦先生 日本指圧専門学校15期卒業生 ハワイ ホノルル在住 「愛泉治療道院」代表 「愛泉指圧学校」校長

1940年生まれ 埼玉県出身 子供時代は腕白で冒険好き、駆け足が誰よりも速かった。中学、高校時代は埼玉の剣豪と言われるほど腕を上げた。高校卒業後、一時はプロゴルファーの道を目指したが事故で挫折。自動車修理工から電電公社へ入社。同時に、指圧教室で指圧実技に大いに興味、関心を深め、日本指圧学校の夜間部に通い指圧の世界へ入る。そして、子供の頃から「夢の国」であるハワイへの移住を決心し、4年間の準備期間ののち、1977年日本脱出、「愛泉治療道院」と、「愛泉指圧学校」を設立。以来30年、指圧治療と後進の育成に励む。ハワイから全米、世界へと、指圧の発展に貢献、2007年3月に創立30周年を迎える。



因泥先生(右)と浪越徳治郎先生(左)の握手。因泥先生は長年にわたり、指圧普及の伝道師の役割を果たして来たといわれている。ホノルルの街、市場や海岸で土地の人に、「あの、指圧の...」と尋ねただけで、「ああ、ミスター・インディでしょう。」と、親しみ深い笑顔が返ってくる。1978年より、有名なホノルル・マラソンに敬意を表して、完走者への指圧治療を門下生と共にボランティアとして毎年行ってきた。

「夢の国」ハワイへの道程
澄みきった青空、輝くような星屑。子供の頃、基のアメリカから聞いた南海の「夢の国」は、ついに因泥文彦(いんでい・ふみひこ)先生の第二の故郷となった。

因泥先生、67歳。ハワイで永住権を取り、以来、指圧治療と指圧師の養成に、週1ゴルフとして、以来30年間、ハワイで充実した忙しい毎日を送っている。「ハワイはね、子供の頃からの理想郷だったんだ。暖かく、穏やかで、美しい楽園。どうせ暮らすんだつたら、自分の納得できる土地がいいよね。」
気さくに話す先生は、明るく社交的で、頼りがいのある人間としてクライアントやお弟子さんから慕われている。30年前はまだ現在のように日本人で、海外に移住する人も少なかった時代、海外、指圧がまだ人々に知られていない時代だった。今や、指圧は全米でヨーロッパで世界中で「SHIATSU」大ブームを巻き起こしている。

指圧治療は、アメリカでは医学に並ぶ「学術技能」としてカイロプラクティックや鍼灸と共にその評価は高い。
因泥先生は長年にわたり、指圧普及の伝道師の役割を果たして来たといわれている。ホノルルの街、市場や海岸で土地の人に、「あの、指圧の...」と尋ねただけで、「ああ、ミスター・インディでしょう。」と、親しみ深い笑顔が返ってくる。1978年より、有名なホノルル・マラソンに敬意を表して、完走者への指圧治療を門下生と共にボランティアとして毎年行ってきた。

ある年は千人を超す走者を、カピオラニ公園の特設テント内で施術したそう。
「僕はこの土地の人が大好きなんだ。なんたって笑顔がいい。彼らのために、そして僕を迎えてくれたアメリカのために残された生涯を捧げようと思う。」

先生は自身の治療道院と学校に、それぞれ「愛泉」という名前をのせた。泉のように愛が湧き出るようにとの祈りを込めて...。これはこれまでの先生の生き方の証であり、生き方の原点でもあろう。
(生い立ち)
1940年12月3日、因泥家の長男として、そして双子の兄として埼玉で生まれ、父の赴任先のモンゴルへ渡った。当時、蒙古自治政府の役人に満たない未熟児の双子の兄弟に、自分の名前「斌(さか)」を分け、文彦、武彦と名付けたという。神主の誇りを持つ父は、兄弟を厳しく育て、とくに礼儀作法にはやがましきつたよつである。

小学校時代は腕白で冒険好きな文彦少年。駆け足や水泳が誰よりも速かったとか。とにかか負けず嫌いでね、勉強じゃあトップになれなかつたから、せめてスポーツで一番になろうと...。父から何かひとつでも人に負けないものがあれば、将来偉くなれるんだぞ、と言われて育った。...。
剣道5段の腕前をもつ先生が、剣の呼吸、に足味をもったのは中学生の時。駆け足より自分にふさわしいと練習に励み、高校時代「埼玉の剣豪」のひとりに数えられるほど腕を上げた。「剣を通じて生まれた友情...」

友情...というのは不思議だね。何年ぶりに会っても「呼吸」が合うんだ。ハワイ永住を決意した頃、揺れ動く心の不安を陰ながら支えてくれたのは、かつての剣友、五十子仁朗氏。先生は今でも、世界中で一人の親友を大切にしている。
「男子一生の職、指圧師で夢に向かっ」
高校を卒業後、先生は人間市にある武蔵カントリークラブに「アシスタント・プロゴルファー」の夢をいだいて勤務しはじめた。
「何よりも体を動かしているのが楽しくてね...。」と、先生はなつかしそに語り切つてましたね...。間もなく思いもよらぬアクシデントが起きる。交通事故で肋骨を4本折るという重傷。傷が癒えたあとも、ゴルフのスイングがうまく出来なくなつた。
生活のために自動車修理工場に入社。ほどなくして、運よく電電公社(現NNT)に採用となる。

さて、因泥先生が指圧治療の道に興味が沸いたのは、幼き日の父の思い出にさかのぼる。先生のお父様は息子を医者にしたかつたらしい。それは立身出世的な発想でも、脱税ができるほどリッチだからという不純な動機からでもなく、純粹に「苦しんでいる人の立場に立つて働ける仕事こそ、男子一生の職である」という発想だ。
そんなことを言い聞かせながら、指圧の手ほどきもしてくれただろう。息子の人生進路には決して口を出さなかつたが、因泥先生の心の奥にはいつしか父の魂と指圧の感觸が焼きついてたのだ。
電電公社の仕事も安定し、結婚して生活も落ち着いた頃、先生は本気になって自分の意思を考えていた。「自分が本当に気に入った土地で、自分のすべてを賭けてみたい。それには日本は狭すぎる。」
子供の頃に夢にまで見た南国の理想郷は、ふたたび自身自身の心を鮮やかに彩るようになつた。自分の思いを奥様に相談した。その時から日本脱出計画、因泥先生の闘いが始まる。
まず電電公社で働きながら、日本指圧学校の夜間部に通つた。卒業後も夜間部で現場での指圧技術や、指圧の理論、解剖学などをたきこみ、浪越徹副校長の助手として、ヨーロッパ各地、カナダへ指圧のセミナーとデモンストレーションをして回つた。最終地バンクーバーから日本への帰国途中、ついに「夢の国」であるハワイに立ち寄り、長い間の憧れの地だったハワイに、初めて第一歩を踏み降ろしたのがこの時である。
「信頼を生んだ無料奉仕、大きく広がる「指圧の輪」」
1973、4年にかけて、因泥先生は幾度となくハワイを訪れ、指圧治療の市場調査を行っている。その時のビザは「B1・2」。観光を兼ねて職場の調査をしてもよいというビザである。先生がいかに本気でハワイの地を歩き回つたのか、こんなエピソードがある。
「有給休暇をほとんどこの旅に充てたんだよね、現地に行つたところを何を見たいのかが、わからなかつたわけよ。それで、ふと思いついて指圧の無料奉仕を始めたんだ。」
指圧、という作業の肌と肌の触れ合いが、しだいにハワイという新天地で信頼を呼び、さまざまなお知り合いになつた。
感觸も十分、手応えあり。西洋医学には望めないものが、現地の人たちに求められている。
「アメリカの国と約束します。指圧の治療と同時に、後進育成のための学校も作りませう。ですから僕に永住の権利を与えてください。」
電電公社を退職後、本格的な指圧の活動を開始した時、最初の弟子となつたのはハワイ大学の女子学生だった。
彼女の口利きで、夏と冬の2回、ハワイ大学で指圧教室を開くという幸運に恵まれた。この時の生徒は約50名。後に「愛泉」を設立した時に、びざを取つてくれた人たちである。びざを取つて貰うまでは公正な報酬を得られない。にも関わらず、先生は無償の治療を続けていた。周りにいた人たちは、そんな姿に対して食べ物や飲み物を運んでくれたり、「なんか宗教団体の、お神さま」になつたような気がしてね、恥ずかしかつたなあ。でも、やればやっただけ心が通じることがわかつて、ますますハワイの人が好きになつたよ。」

「憧れの地で指圧の心、母心」
郵便箱を開いて今日も...。しかし半年たったある日、移民局からVISA、GREEN CARDが届いた。「ウウ、嬉しい、これがGREEN CARDだ!」GREEN CARDを取得するにあたりSPONSERをして下さつた(故)山崎菊代様について、初めてお会いした時、皇后陛下みたいな方だな、と思つたよ。」と、因泥先生は語つてくる。
数年経つてわかつたのだが、山崎様は、現平成天皇陛下が皇太子殿の時、御新婚旅行でハワイに御来布された時に米国ハワイ州を代表して歓迎のお言葉を述べられたお方であった。山崎様はいつか因泥先生の指圧を褒めて下さり、冷たいビールとマングローをよくご馳走してくれたそう。
「因泥さん、ハワイには指圧が必要ですね。貴方がハワイから逃げないとお約束してくだされば、私と甥のダニエル松陰がSPONSERをしますよ。」と約束して下さいました。
ダニエル松陰様はファイナンシャルの銀行の持ち主であった。このお2人の力添えがなかつたら、先生はハワイに居住はできなかった。当然、指圧の発展も計画通りにならなかつただろう。

愛泉治療道院、愛泉指圧学校は1977年3月3日、13145、King St #601に設立開業したが、客入り、#0の日の約10日も続いた。開設した新ビルディングの中はガラガラの空部屋だらけ、「人がいないビルの中は大変淋しく感じた。」と、因泥先生は開設当時を振り返つて言う。「自分は水泳が好きなので、昼頃まで待つても電話が来ない時は見切りをつけ、アラモ

スイス寄稿

スイス国際指圧セミナーの報告

浪越雄二



スイス大会開会式浪越理事長 左アンナ・マリア 右ダリオ先生

平成18年5月25日から4日間、スイスのアルベードで、「国際指圧セミナー」が開催されました。海外の参加国は、イタリア、スペイン、スイス、ポルトガル、フランス、オランダの6ヶ国、約120名が参加されました。日本指圧専門学校からは、浪越和民理事長、青木宏国際部長、小林秋朝先生、治療部浪越雄二の4名が参加しました。



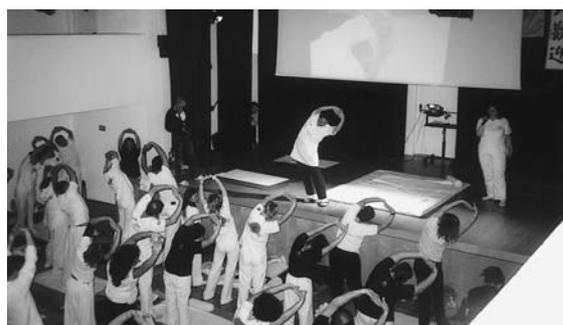
五十肩疾患患者をモデルに実技 小林秋朝先生 中央

セミナーで講義された先生は、スイスからPiero先生、イタリアからはDouglas Gattini先生、スペインからは小野田茂先生、日本からは小林秋朝先生が講義されました。セミナーの開会式で、浪越和民理事長は、「浪越指圧の歴史」と題して講演し、次いで青木宏国際部長は、「浪越指圧と国際事情」に関して話されました。



膝の疾患患者をモデルに実技 小林秋朝先生 スイス

セミナーでは、小林秋朝先生が「五十肩の治療」と「膝の治療」について、実技を交えて講義されました。筋肉の図をスクリーンを使って説明され、テスト法や圧の方向、圧の強弱と、まるで日本の学生を教えるように、熱く講義されました。同時通訳も2名、イタリア語、スペイン語で話されていました。小野田茂先生は、「圧の種類」と「不眠症の治療」について、同



実技前のストレッチ 小野田茂先生 背後大スクリーン

じく実技を交えて、講義指導されていました。先生方の講義を、メモを取りながら、本当に熱心に聞く参加者の姿勢に自分は、感動しました。休憩時間には、小林先生、小野田先生、青木先生に、指圧実技に関する質問を、真剣にしていました。

セミナーの開催中には、地元テレビ局が和民理事長と小林先生、スイスのアンナ・マリア・フレイ先生、ダリオ・バランツィーニ先生に、取材をしに来ていました。その模様は、その日の夕方のニュースで放送されました。スイス浪越指圧協会会長のアンナ・マリア・フレイ先生やダリオ・バランツィーニ先生はじめすべての先生方の尽力で、浪越指圧



スイス大会終了日 ベリンゾーナ会場の広庭にて参加者と記念写真

今回のセミナーで、昨年お会いした、イタリアのロベルト・タバールナ先生や多くの先生方と再会したことも、自分にとっては、とて

は、スイスの労働保険に認められ、マスコミにも注目されています。日本に居たら解らないことです。



開会式マドリッド（スペイン）青木宏先生挨拶

スイスでのセミナーも大成功に
終わり、一行は小野田先生とスベ
インへ移動し、マラガとマドリッ

も嬉しいことでした。



マドリッド（スペイン）講習会場

今回のセミナーで思ったことは、
これほどまでにヨーロッパで、浪
越指圧を学びたい人がいることに
驚きました。
ここまでに至るには、浪越指圧
ヨーロッパ会長小野田茂先生が、
イタリア、スイス、オランダの先
生方に、尽力されたお陰だと思ひ
ます。



「五十肩」疾患患者をモデルに実技 小林秋朝先生

ドで開催されたセミナーに参加し
ました。
マラガでは30名程、マドリッド
では50名程の参加者が集まり、小
林先生、小野田先生が、スイスで
のセミナーと同様に講義されまし
た。
ここでも、真剣に学ぼうとする
参加者の姿勢に、胸が熱くなりま
した。



マラガ（スペイン）講習会場

11月には、中南米のグアテマラ
共和国で、小野田先生、青木先生
スペインから8人の先生で2日間
の指圧のセミナーが開催されまし
た。



「五十肩」疾患患者をモデルに実技 小林秋朝先生

小野田先生は、圧の入れ方、施
術する姿勢なども熱心に指導され
ていました。
参加者の指圧に対する理解の早
さに驚きました。
二日間のセミナーも大盛況に終
りました。
スイス、スペイン、グアテマラ
の指圧セミナーの参加者の多さに、



基本指圧 浪越雄二先生（スペイン）

参加者は、130名が集まり、
グアテマラでの指圧の感心の高さ
に驚きました。
セミナーは、浪越の基本指圧が
メインに行われました。
自分が基本指圧のデモンスト
レーションを行っているのを、小
野田先生がスペイン語で説明され
ていました。



TVに放映された横臥位指圧

本当に驚きました。
これからも浪越指圧を皆んなで、
世界に広めていきたいと願ひして
おります。



TVの取材を受ける浪越和民理事長（スイス）

平成十八年度通常総会内容

日本指圧専門学校同窓会の平成十八年度通常総会が平成十八年六月十一日(日)、茗荷谷の茗溪会館にて開催されました。

出席者は在校生も含め、百二十余名。定刻十時、同窓生物故者に対し、黙禱が捧げられた後、総会が開催されました。後藤和江副会長の開会の挨拶、君が代斉唱の後、青木宏会長の挨拶と続き、浪越和民名誉顧問、

石塚寛名誉会長からご祝辞を頂きました。

次に議長団の選出が行われ、議事に入りました。

平成十七年度事業報告及び決算報告、監査報告。

平成十八年度事業計画及び予算案。

新役員の挨拶。が、全員の拍手により、賛同、承認されました。

その後、「医業類似行為



平成18年度同窓会懇親会

に関する最高裁判決から考える指圧業界の今後の対応」と題して、内城勇造副会長の司会のもと、芦野純夫先生により講演が行われました。出席者全員真剣な眼差しで聞き入り、ビデオ撮影や録音をなさる熱心な出席者もいらつしやいました。この演題については、ご関心のお有りになる方が多数いらつしやるのではないかと思います。

○指圧との出会い
私が指圧専門学校で学ぶことになった経緯からお話します。私は、四谷にある東京高等鍼灸学校で学んで免許取得後、元々音楽の勉強をしていたウイーンで鍼の研修をしておりました。帰国後は鍼灸界の大御所、筑波大の芹沢勝助教授の下で学び、その後、間中喜雄先生にも個人的に非常に親しく指導していただきました。



平成十八年度
記念講演

「医業類似行為に関する最高裁判決から考える、指圧業界の今後の対応」

厚生労働省教官(国立リハビリテーションセンター理療教育部) 24期 芦野純夫先生

省でしたので、私の官職名は厚生教官と言いました。その時、2年間日本指圧専門学校で指圧を勉強してくれと言われました。私は鍼の専門家だったので、この業務命令には驚きました。当時国立のリハビリテーションセンターなどでは、按摩・マッサージをやっているも、指圧の実技はやっていなかったのです。厚生省のお膝元で、自らが按摩・マッサージ・指圧という、3つの業を一つの免許としているのに、指圧を一切教えてないというのは何なのかと、しばしば突っかれています。

私の家は神楽坂なので、「家も近いので、指圧を勉強してきてくれ、その代わり4時になったらもう出ていいから」ということで、芹沢先生に保証人になって戴き、日本指圧専門学校に入学いたしました。

○昭和35年最高裁判決の真実
私は、リハビリセンターの勤務を現在も続けておりますが、厚生教官になりましたの頃、あはき師法についての、随分わからないことがあり、私なりにあはき師法を勉強してきました。それが今日お話しする内容の骨子なのです。

あはき師法の解釈が、立法時のものと今とではまるで違うということを知り、頭をガーンと殴られたようなショックを受けました。あはき師法が施行されたのは昭和23年のことです。私はその法律を作った厚生省教官として法の解説をしなければならぬと思い、「あん摩、はり、きゅう、柔道整復等営業法の解説」を読みました。この本にはあはき師法というのはどういふものか、医業類似行為とは何を指しているか、詳しくはつきり書いてありました。

今から2年前にこのようなことがありました。日本あんま・マッサージ指圧師会(以下日マ会)の会報に、「昭和35年の最高裁判決が、電気治療を行っていた医業類似行為者と、その電気治療について争われ、憲法で保障した職業選択の自由が優先され、無罪となりました。それ以来、医業類似行

最後に校歌をみんなで斉唱し、鈴木三副会長による詩吟、そして閉会の挨拶と続き、これをもって本通常総会は閉会となりました。

芹沢先生のもとで学び終わった頃、現在勤めている国立身体障害者リハビリテーションセンターが、所沢に開設されました。芹沢先生が、筑波大学を退官され、そのリハビリセンターの理療部門の運営委員になられた時に、私は現在も勤めるこの施設に誘われたのです。当時は、まだ厚生労働省ではなく、厚生

為は自由に行えるようになって、巷に溢れているのです。日マ会としては、それに対抗するために、いわゆる按摩・マツサージ・指圧だけでなく、医業類似行為も積極的にレパートリーとしてやっていきましょ。という内容が掲載されました。

私は、日マ会会長と親しかったので、「あの内容は全く違いますよ。」と云って、執筆者にも「正反対で全く違いますよ。」と伝えておきました。

これはどうということかという、憲法でいう「職業選択の自由」というのは、誰もは何をやってもいいという意味ではなく、憲法22条で「公共の福祉に反しない限り」という但し書きが付くのです。ですから、無免許者が勝手に治療行為を行うということは、公共の福祉に反するので、それは認められず、結局その上告は退けられたのです。無罪になってはいないのです。

その後、その被告は、電気治療（無熱高周波療法）について、仙台高裁に差し戻し、東大の大島教授等の鑑定を受けて、無免許者が勝手に行うと危険な治療であるということ、有罪で確定したのです。

それを受けて、この被告はもう一度最高裁の再上告

するのです。しかし、高裁の差し戻し判決に、違法は認められないということ、今度は棄却されるのです。この棄却には、非常に重要な意味が込められています。

このあたりが大きく誤解されているところなのです。療術師のホームページを見て、昭和35年の最高裁判決で、職業選択の自由ということが無罪になって云々、ということが、堂々と書いてあります。

きちんと判決文を読んで、経緯をたどっていけば、分かることなのです。先程の日マ会の会報執筆者にこのことを連絡したら、こんな風に言っていました。「そんなことを言っても、世間ではみんな無罪になったと言っている。最高裁判決は無罪は、コンセンサス上の事実じゃないですか。」

いや、驚きました。要するにそれが世間のコンセンサスになったと。コンセンサスとしてもう定着した以上、それは本当の真実がどうであれ、その多数意見が優先されるのだと。これは日本的なあり方で、その執筆者が悪いわけではないのです。確かに日本ではすべてでその面です。日本ではすべてあります。

例えばこういうことです。日本とヨーロッパを比べる

と、大きな違いは、ヨーロッパでは本当のこと、真実は大衆にはわからない。ごく一部のみにしかわからない、真なるものはわからない、だから、そういう大衆がどう評価しても、そんなのは問題ではないのです。本当にわかってる人にわかってもらえればいい。これがヨーロッパ人の基本的な考え方なのです。

ヨーロッパでのルイ・ヴィトンや、エルメス、そのような一流ブランド品に対する考え方がまさにそういうことなのです。日本はもうヨーロッパの一流ブランドだと、ワーツと若い二十歳ぐらいのOLまで、無理してぶら下げていますけど、ヨーロッパではそういうことはないので。本当のものは、極少数者にしかわからない、大衆というものを当てにしていないのです。

ところが、日本は、そうではないのです。いつもいつも人の顔をうかがいながら、過ごしています。つまり他人がどう思っているかばかりを気にして、真実はこうなのだと思っても、そんなことを言ってもみんなはこう言っています、というふうになってしまっています。これが日本社会のコンセンサスとなって、真実よりそちらが通ってしまうのです。

と、大きな違いは、ヨーロッパでは本当のこと、真実は大衆にはわからない。ごく一部のみにしかわからない、真なるものはわからない、だから、そういう大衆がどう評価しても、そんなのは問題ではないのです。本当にわかってる人にわかってもらえればいい。これがヨーロッパ人の基本的な考え方なのです。

○これからの指圧学校

今後、指圧学校はどうあるべきかについて、ふれておきたいと思えます。

現在、東京都内にもあはき師養成学校はたくさんありますが、自分は鍼灸には興味がない、あん摩・マツサージ・指圧だけの免許が欲しいという考えの方が入れる学校が少ないのです。この日本指圧専門学校と、蒲田にある長生学園だけです。この2校が公認された後、あはき師法19条により、あん摩・マツサージ・指圧師養成学校を一切作ることができなくなってしまうのです。

だから、無免許の手技療法養成校がドツと溢れてしまったのです。彼らは学校を作るにも作れない、免許も取れない、それなら勝手にやらせてもらいますと、いい、19条で規制しているのは憲法違反だ。それでだめだと言つのなら、こちらも訴えるところに訴え出ます、という考え方なのです。もし裁判になれば間違いなく、憲法22条職業選択の自由の違反になってしまいうでしょう。

韓国では、手技療法免許は盲人の方しか取得できないという決まりになっています。つい最近これに対して、晴眼者がそれは違憲だと訴え、憲法違反の判決が出ました。

日本でも同じです。機会の平等を認めない19条は明らかに憲法違反なのです。訴え出られたら、これは負けてしまうので、行政としては無資格施術者を黙認せざるを得ない、非常におかしなジレンマに陥っているのです。

出ました。

日本でも同じです。機会の平等を認めない19条は明らかに憲法違反なのです。訴え出られたら、これは負けてしまうので、行政としては無資格施術者を黙認せざるを得ない、非常におかしなジレンマに陥っているのです。

だから、彼らは平気で看板を掲げている。先に述べた最高裁判決の誤解より、この方がずっと我々にとつて大きな問題です。その解決の一つの方策をお話します。

法律で言う「指圧」というのは、按摩マツサージ以外のその他の手技療法の総称なのです。法律上の総称なのです。

昭和30年、施術行為の仲間入りをした時に、いろいろな手技療法を「指圧」という総称で、あん摩の業の中に加えたわけです。

だから、せっかくその法律の言う「指圧」という名前を冠している日本指圧専門学校では、もちろん根幹は浪越徳治郎先生創始の浪越指圧でなければいけません。病気を治せるいろいろなカイロ、整体の手技による治療術を、幅広く授業の中に取り入れるべきです。

「手技による治療を勉強したければ、こちらに来て

ください。「指圧」というのは本当は、按摩マツサージ以外の手技療法の総称なのです。だから、ということ、新たに脱皮していかないといけないと思つたのです。今の状況は、公認の学校で指圧といえ、単なる押圧法、按摩の圧迫法ぐらいに思われていますから、この点も改めなければいけないと思えます。

私の知り合いの方が、歯科医師なのですが、一日中立って、腰を曲げて口の中を見ているので時々ぎっくり腰を起こすことがあります。だから、按摩やマツサージにかかっても、気持ちいいだけで全然治らないので、カイロの先生に診てもらおうとします。そうすると一発で治してくれと言つたのです。それを聞いて、情けないと思いました。

免許者には治してもらえない。治してもらえないから無免許者のところに行つて治療を受ける。19条は当分撤廃が不可能なのです。19条に守られた「指圧」を標榜するために、何よりも本校が手技によって病気を治せる手技療法の牙城になってもらいたいと思えます。

これで私の今日の話を終わりにさせて戴きます。

第二回 指圧実技講習会

平成18年8月6日(日)、日本指圧専門学校5階第一実技室において第二回指圧実技講習会が開催されました。

今回は、午前を第一講座、午後を第二講座と内容を変えて行われました。
午前10時、青木宏同窓会長長の挨拶により、講習会が開始されました。

第一講座は、39期金子孝夫先生を講師にお迎えし、「指をつくる実践訓練法」と題してご講義して戴きました。



一面にマットを敷き詰められた実技室で、合わせて70名を超える同窓生、在校生は、指圧の基本となる指づくりを実技を主として学びました。「自らの力をロス(損失)しない」、「自らの動作にブレーキ(抵抗)をかけない」をテーマに、母指と四指の使い方、体重の移動の仕方を細かく説明され、力みのない安定した圧で圧すことを指導されました。指圧の姿勢を運動学的、かつ力学的に、参加者の手をとりながら指導されました。

午後1時からの第二講座は、前年度に引き続き同窓会副会長である鈴木林三先生による「肩甲下部による相互トレーニング」。

肩甲下部を基本とした伏臥位や横臥位のデモンストレーションが行われ、その後、参加者一人一人への指導となってきました。

基本指圧とは、点数・回数だけではなく、きちんとした姿勢で圧せるかということであり、余分な力を抜き、体重の移動ができてこそ基本の押し方ができる、と指導されました。

鈴木先生の指導により、体が一体化したような感覚を覚えていた参加者が見て取れました。

定時である午後4時をオーバーするほどの大盛況

く、きちんとした姿勢で圧せるかということであり、余分な力を抜き、体重の移動ができてこそ基本の押し方ができる、と指導されました。

第一講座を担当して

39期 金子孝夫

◆実技の自己修煉について
私が母校を卒業して10年近くたつ。入学直後から、さらなる向上を目指して、ちよつと練習するだけで腰が痛くなつて長続きしない。

1年生の夏休みに更なる上達を願い、1日に2000回を超える実技鍛錬を計画実施したのだが、何度が試みたが腰への負担が増大し目標を達成できなかった。これは腰に大きな負担が掛かりすぎるのではないかと考えた。

このため、腰が痛くならず継続できる、言い換えれば「腰に無理のない」実技形式を模索し、自分なりの

のうちに終了。梅雨も明け、真夏日となった当日、同窓生も在校生も一緒になって基本を追い続ける真剣さは、まさに気候よりも熱いものを感じました。

こつして金子孝夫先生、鈴木林三先生による、第二回指圧実技講習会を無事に終了することができました。関係者の諸先生方、ご協力ありがとうございました。

目標を達成できるフォームにたどり着けた。

2年生になって、ある先輩の姿を見たとき、自分が見出したホームと酷似しており、お話を伺うと納得のいく説明と明確な練習段階を示され、是非にと教えを請うた。しかしながらその習得は困難を極め、ひたすら練習しても技量の向上があるわけではなかった。

入学する前、私は民間企業の約25年近く技術開発を担当してきた。熟練工の技術をIT化したり開発生産工程の電算化を手がけた技術者としての習い性で論理的な修練法は無いかと考える様になっていた。

もし「技を合理的に解析できれば……」、仲間も後輩もキツト助かるし、先輩の偉業に早く到達できると考えられた。

◆合理的な観点とは何か
先ずは、模範とした先輩の教えや実技を出来る限り細部に分解し、個々の動作を合理的、人間工学的観点から分析することであつた。

「合理的観点」とは、先ず大切な事は、身体の構えや動作に無理がないかどうかと考えることである。取材分析の結果は、指圧の技は極めて無理のない構えと動作の集積であることが判明した。

同窓会の研修会において、私が講師を依頼され、皆さんにお話した内容はその「合理的観点から解析した技」の一部を披露させていただいた。

その内容は大きく2つの事柄に集約される。そのひとつは「自らの力をロス(損失)しない」ということである。もうひとつは「自らの動作にブレーキ(抵抗)をかけない」ということである。これを解り易くいなら、「施術者が楽に圧せて、治療効果があ

る」ということになる。私自身は残念ながら浪越徳治郎先生のことを詳しくは知らない。しかし、浪越徳治郎先生が創り出した「浪越指圧」が、他の手技療法を凌駕して現在の地位を得たのは、彼が類い稀な才能から、豊富な経験に裏打ちされた結果として、構えや動作に合理的な内容を集約し、それ故、治療効果を飛躍的に高め、指圧の名を世に高めたのではなからうか。

浪越徳治郎先生は、「同じ志、同じ技を持った仲間」を育て、指圧を広めようと考えていたという。そのため、自らの指圧のエッセンスを浪越指圧における「基本指圧」として我々に残してくれたものと信じる。しかし卒業後、同じ「浪越指圧実技」であるはずが、私が習ったスタイルと、先輩のスタイルと後輩のスタイルが大幅に異なっていることに気が付き驚いている。このような大幅な変化が生じたのか考えてみる必要があるのではないかと。

最後に、浪越指圧の教えを受けたものとして、浪越指圧が、その技において再び他の手技療法を凌駕することを願う。

第三回 指圧実技講習会(静岡)

研修会に出席して..

39期 天野 幸好

平成18年11月16日(木) 17日(金)、一泊二日の同窓会研修会に出席しました。

会場は、海と富士山に囲まれた景観のとても良い静岡県富士市「富士ハイツ」です。

本研修会には、20名以上の同窓生が出席しました。今回の研修会に出席するにあたり、企画開催して頂いた同窓会(役員等)に御礼申し上げます。有難う御座いました。

さて、今回の研修会、初日(16日)の講座「パネルディスカッション(討論形式)」では、パネラーの3先生(川原善次郎先生・塩野泰利先生・村岡曜子先生)が「現状・患者数・売上・手技内容等」や「そこに至るまでの経緯」などについて話をしました。先生方夫々が、順風満帆で治療してきたわけではなく、夫々の紆余曲折を経て現在の地位にいたることがよくわかりました。

先生方の話を聞いていて、自分自身の感覚で分かりますか? 私自身、プロとして、無理なく任せ、痛くなく、効果の上がる指圧が出来る様模索が続いています。今回、出席された学校教師から、「学校教育では、指を大切に、痛い指圧や指を壊す様な指圧は、しない様に教育しています」と説明がありました。これから、指圧「痛い」を払拭できる様、学校教育を含め、業界で考えていかなければいけないのではないのでしょうか? 次に、開業したけれど集客できない。どうしたら良いのか? どこをどの様に圧したらどの様な効果・反応があるのか? 例えば、患者の生体から「治ったよ」と教えてくれる様な反応を感じる事が出来るのだろうか? 私は、開業して7年を過ぎました。恥ずかしながらも未だに自分自身の感覚器を駆使しても患者に対して、「原因がここで、その原因を取り除いたので、大丈夫です!」と説明できません。凝りや張り、左右を比較して変調を見たりしますが、

痛くないのか? 果たして、それだけで良いのだろうか? 今の私にとつての最大のテーマです。夫々の先生には、何かを感じ取るものがあるはずで、そうでなければ、大勢の患者達から、「良くなった、良くなった」と言われることもありません。また、集客できるはずもありません。患者から教わる事が多く、経験から学んだものが多いのではないのでしょうか? 最後に先生方が「何かひとつでも自信の持てるものを作ることが大切である」と言いました。時間制限で、討論もここで終了。その後、お風呂に入って、宴会へと移りました。宴会で親睦を深め、さらに二次会へと続き、とても楽しい一時を過ごせました。

二日目(17日)の実技講座では、川原善次郎先生が仰臥での頭部・顔面・頸の指圧を惜しみ無く披露、指導してくれました。頭部の指圧では、眉間から頭頂部まで、連続的に圧すこと。さらに先生は、仰臥での前頸部指圧を指導してくれました。身体の不自由な方や体位変換が容易にできないときなどに応用できます。

その他、枕の事なども、とても参考になること多い実技講座でした。ご指導有難う御座いました。今回の研修会に出席して、とても良い勉強になったのももちろんのこと。研修会に出席しなければ、得られないものが多いこと。漫然と黙々仕事をしていたので、狭く籠もってしまっていたことを実感。自分自身に僅かながら自信が付いたこと。様々な経験も必要であること。是非ともこの様な研修会が、続けられる様お願い申し上げます。今回の研修会に出席させて頂き有難う御座いました。



第四十八期 卒業式

日本指圧専門学校第48期卒業式が3月10日(土)リーガロイヤルホテル東京



にて午前10時から執り行われた。

金子泰隆先生の司会で、

林正義副校長の開式の辞、

君が代斉唱の後、卒業証書の授与に移る。昼間部神田

浩士先生、夜間部金子智久

先生各担任の呼名により卒業生一人一人が壇上に上り、

石塚寛校長により卒業証書と専門士の称号が授与された。

続いて賞状の授与に移り、

まず、3年間の雨の日も風の日も1日も休むことなく皆

勤された卒業生に、満場の拍手と共に賞状と記念品が

手渡された。引き続き功労賞(学級委員)、優等賞の

表彰、さらに指圧研究会、

野球部、マラソン部、ト

次に祝電披露、来賓紹介

の後、在校生代表黒澤一弘

さんの送辞、卒業生代表浅

田秀男さんによる思い出の

こもった答辞、宮岡文子さ

んから卒業記念品目録の贈

呈(プロジェクト)があり

ました。

校歌「指圧讃歌」を合唱

し、林副校長の閉会の辞を

もって卒業式を終了した。

12時より卒業謝恩パ

ティーが開催された。D組

青木伸晃さん、金城光さん

の司会により、48期校友会

会長浅田秀男さんの挨拶、

石塚校長、浪越理事長、来

賓の煙山力文京区長の挨拶

に続き、田村鉦二先生の乾

杯の音頭で祝宴に入る。飲

談の後、3年間の思い出が

大きなスクリーンに上映さ

れ、歓声が上がった。

石塚寛校長の式辞、浪越和民理事長の祝辞に続き、

来賓の山岡祥宏日本指圧協

会理事長、青木宏同窓会会

長より祝辞を頂戴し、スベ

インよりお越しの浪越指圧

ヨーロッパ代表小野田茂先

生より熱いエールを戴いた。

次に祝電披露、来賓紹介

の後、在校生代表黒澤一弘

さんの送辞、卒業生代表浅

田秀男さんによる思い出の

こもった答辞、宮岡文子さ

んから卒業記念品目録の贈

呈(プロジェクト)があり

ました。

校歌「指圧讃歌」を合唱

し、林副校長の閉会の辞を

もって卒業式を終了した。

12時より卒業謝恩パ

ティーが開催された。D組

青木伸晃さん、金城光さん

の司会により、48期校友会

会長浅田秀男さんの挨拶、

石塚校長、浪越理事長、来

賓の煙山力文京区長の挨拶

に続き、田村鉦二先生の乾

杯の音頭で祝宴に入る。飲

談の後、3年間の思い出が

大きなスクリーンに上映さ

れ、歓声が上がった。

石塚校長、浪越理事長に

卒業生を代表して肥田埜幸

子さん、徳田代智子さんよ

り花束贈呈。担任への感謝



し、林副校長の閉会の辞を
もって卒業式を終了した。
12時より卒業謝恩パ
ティーが開催された。D組
青木伸晃さん、金城光さん
の司会により、48期校友会
会長浅田秀男さんの挨拶、
石塚校長、浪越理事長、来
賓の煙山力文京区長の挨拶
に続き、田村鉦二先生の乾
杯の音頭で祝宴に入る。飲
談の後、3年間の思い出が
大きなスクリーンに上映さ
れ、歓声が上がった。
石塚校長、浪越理事長に
卒業生を代表して肥田埜幸
子さん、徳田代智子さんよ
り花束贈呈。担任への感謝
のプレゼント贈呈というサ
プライズ企画もありました
最後に佐藤広太さんによる
感謝の言葉が述べられ、感
動の中、14時卒業謝恩パ
ティーを終了した。

学園祭

学校では一昨年度から、学園祭を行っております。平成18年7月22日(土)には、第二回学園祭が開催されました。

学校池の前の広場では、やきそばなどの模擬店を出店し、また2年生が中心となり坐位指圧を施術しました。通りがかりの方に一生懸命施術し、青空指圧を彷彿とさせました。

学校説明会では、大勢の入学志望の方が熱心に耳を傾けておりました。校舎では、チャリティー指圧・フリーマーケット・喫茶店・書籍販売・ゲーム大会・男装女装コンテストなどのイベントを開催し、いずれも大盛況のうちに終わりました。

なかでも、5階実技室で行われたチャリティー指圧は絶え間なく行列が続き、ご来場の方に喜んでいただけました。

今年度も第三回学園祭の開催を予定しております！

卒業して間もない方も、そうでない方も、是非、学校に足をお運び下さい。学校の「今」を感じて頂けると幸いです。

お知らせの方、入学希望の方など、お誘いあわせの上、是非いらしてみてください。

学年、昼夜を越えての学校行事に学生達は、さ



受賞者

※個人情報保護の観点から、ホームページ上では掲載しておりません。

卒業生代表からのひと言メッセージ

A組 北村行雄
五十歳の再出発として妻の許しを得て浪越学園での三年間の学生生活は誠に充実して

卒業に際し B組 竹下仁
卒業に際しての感想ですが最後の1年間はチョット苦しかったけど、3年間本当に

A組 柳田陽子
卒業を迎えて、いつも見慣れた伝通院の景色も懐かしいもののように見えてきます。

事務方の皆様、同窓の皆様
ハートフルな先生方、お世話になりました。

指圧を学びながら、友達、上級生、下級生、先生方とのよいつながりがありました。

学校を訪ねます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

卒業に際し B組 竹下仁
卒業に際しての感想ですが最後の1年間はチョット苦しかったけど、3年間本当に

A組 柳田陽子
卒業を迎えて、いつも見慣れた伝通院の景色も懐かしいもののように見えてきます。

事務方の皆様、同窓の皆様
ハートフルな先生方、お世話になりました。

指圧を学びながら、友達、上級生、下級生、先生方とのよいつながりがありました。

とても不思議な気持ちで卒業を迎えようとしています。

卒業に際し B組 竹下仁
卒業に際しての感想ですが最後の1年間はチョット苦しかったけど、3年間本当に

A組 柳田陽子
卒業を迎えて、いつも見慣れた伝通院の景色も懐かしいもののように見えてきます。

事務方の皆様、同窓の皆様
ハートフルな先生方、お世話になりました。

指圧を学びながら、友達、上級生、下級生、先生方とのよいつながりがありました。

また自分が受けて一番気持ちがいい手技で、指圧が大好きになれたからです。

卒業に際し C組 小関佳子
「がむしゃらに走りぬけた」と表現するのが一番近いのではないかと

A組 柳田陽子
卒業を迎えて、いつも見慣れた伝通院の景色も懐かしいもののように見えてきます。

事務方の皆様、同窓の皆様
ハートフルな先生方、お世話になりました。

指圧を学びながら、友達、上級生、下級生、先生方とのよいつながりがありました。

という疑問を常に持つていたが、三年間伝統ある指圧研究会に参加し指圧による効果

卒業に際し D組 浅田秀男
学校生活を無事終えたこの瞬間、「指圧」が素晴らしいものであると確信する私がい

A組 柳田陽子
卒業を迎えて、いつも見慣れた伝通院の景色も懐かしいもののように見えてきます。

事務方の皆様、同窓の皆様
ハートフルな先生方、お世話になりました。

指圧を学びながら、友達、上級生、下級生、先生方とのよいつながりがありました。

母心の詰まった親指と辞書を片手にスペイン語圏の国々へ渡つてみます。

卒業に際し D組 浅田秀男
学校生活を無事終えたこの瞬間、「指圧」が素晴らしいものであると確信する私がい

A組 柳田陽子
卒業を迎えて、いつも見慣れた伝通院の景色も懐かしいもののように見えてきます。

事務方の皆様、同窓の皆様
ハートフルな先生方、お世話になりました。

指圧を学びながら、友達、上級生、下級生、先生方とのよいつながりがありました。

第五十一期入学式



一週間前に満開になった桜の花びらが風に舞った、平成十八年四月七日、日本指圧専門学校第五十一期入学式が茗荷谷の茗溪会館に於いておこなわれました。

林副校長先生の開式の辞君が代斉唱の後、新入生のひとりひとりが担任教員（昼間部・石塚洋之先生、夜間部・金子智久先生）より呼名をされました。石塚校長先生の式辞では「発心・実行・継続」という浪越徳治郎先生が生前よく入学式でおっしゃっていたお言葉を、この三年間の motto として学園生活をお



くつて下さいとお話されました。浪越和民理事長は、当校のスローガンである「母（こころ）を胸にぎざんで立派な指圧師に成長してくださいとお祝いのお言葉を述べられました。

来賓の指圧協合理事長山岡祥宏による祝辞、同窓会会長青木宏先生の祝辞に続き、在校生三年C組黒澤一弘さんが、あたたかく大きな心で歓迎の言葉を新入生に向け伝えました。それを受け、一年A組の岡本京子さんが入学にあたっての意気込みを高らかに宣誓しました。教職員紹介に続き、指圧讃歌を全員で斉唱し、閉式の辞をもって日本指圧専門学校第五十一期の入学式は幕を閉じました。

新入生の抱負

51期1B 北原 潤

私は以前、リラクゼーション業に就いていました。お客様の中には辛い肩こりや慢性的な腰痛などに苦しむ方が多くいらっしゃいました。私は治療という立場から施術できないまでも、コミュニケーションを取りながら、少しでも症状が和らぐよう技術と知識を学んでいきました。しかしまだ根本的な力不足を感じ、究めていきたい、力をつけて本物になりたいという気持ちが強くなる一方でした。

かつて、職場で本校の生徒と仕事が一緒になる機会がありました。腕もさることながら指圧に対する熱い思い、温かい気配りに感心した事を覚えています。

このような経験と理想が手伝って、晴れて入学する事が出来ました。これから先は周りの応援に報い早く恩返しする為と、生涯現役を自分も目指して医療分野でも貢献できるよう、通用するように基礎から力をつけたいと考えています。日々努力を重ね、向上していきたいと思っております。

抱負

51期1B 諏訪優美絵

幼い頃から将来人の役に立てることをしたいと思いつけ、遂に私の理想としていた道具を使わず自分の手だけで治療ができる指圧と出会いました。そして難関日本指圧専門学校へ合格することができました。

しかし、まだスタート地点に立つただけのこと。これから私だけの「指圧道」をどう歩むのが大切ですか。やりたい事は沢山あるけれど行動に移せなければ意味がありません。

学習・生活両面における基礎・基本を徹底し、正確な指圧技術を身につける事こそが私の今の目標です。今まで支えて下さった両親をはじめ、沢山の方々に思いやりといたわりの心をもち、指圧という恩返しをするのが最終目標です。

指圧の創始者・浪越徳治郎先生の遺志を受け継ぎ、指圧の名に恥じぬよう私なりの「指圧道」を歩んで行きたい思います。

51期1C 寺島 わこ

私は、大学を出て六年間、医療関係の仕事に就いていました。多くの患者さんに接するうちに、病気になる体作りや、自然治癒力というものを、考えるようになり、大学時代には、東洋医学に関する勉強は、あまり関心を持つ事がなかったのですが、厳しい業務に追われるなか、心身ともに疲労した私は指圧の治療院に通ううちに、指圧について興味を持ち始めました。私だけでなく、現代社会では、多くの人がストレスをかかえ生活を送っています。そこで私は、これから本校で学ぶ事と、今までの知識や経験を加え、東洋医学、西洋医学を融合し、今後活用していけるようになりたいと思っております。

本校は、私の妹も在籍した学校でもあります。これから三年間楽しく、厳しいご指導してくださいませよう、よろしくお願ひします。

51期1D 岡野 雄司

入学に先立ち、これからお世話になります先生方、職員の方々、在校生そしてこれから一緒に学んでいく皆様に一言ご挨拶をさせていただきます。

指圧を本格的に学んでみようと思っていたから、合格発表を待つまでは、いろいろと不安が交錯していましたが、晴れて入学を許可され現在の心境はと言いますと、只々希望で胸がいっぱいといったところです。

私はスポーツが好きで、身体の機能に興味、関心を自然と持つようになりました。スポーツも競技レベルで行うようになり、ますます身体の状態を常にベストに、さらに試合前には100%以上に動けるようトレーニングさせなければなりません。それに、幼い頃からケガをしない身体の状態にしておくこと、またケガをしてもすぐに復帰できる治療をする必要があるなってきました。この身体の状態は自分自身で維持できるのです。自分の限界を超えたとき、間違いない他者の助けが必要となります。私は経験的に道具、器械や薬品を使った治療は好きではありません。治ったような気があまりありません。重い病気以外のこうしたスポーツや日常生活でのケガの治療には、やはり心こもった、人間対人間の、ごまかしの効かない、人の手による治療が一番だと思っております。

入学後は先生方から、指圧に関するさまざまな知識や技術を真剣に学び、また痛みを悩む人の身になってどれだけの考えをえられるか、自分を捨てて親身になれるかといったことを学びとって行きたいと思っております。何分にも四十に手の届く年齢からの一念発起です。頑張りますので、皆様 何卒ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

ハワイ指圧学校研修

ハワイ研修報告レポート

50期A組 伊能 京子

スーツケースの荷物を一つ一つ片付けながら皆で撮った集合写真を手にした時、温かく迎え入れて下さった方々の優しい笑顔が走馬灯のように浮かび、荷解きの手が止まりました。

今回の目的の一つでもある解剖研修は、自分のイメージしていた事とはかなり違っていました。想像していたより脂肪は厚く、深層の筋肉はとてとても深く驚きました。

今までは、教科書の平面の図でしか知らず、試験前に慌てて詰め込んでいた日々でした。しかし、実際に目で見て手で触れ、立体的に理解することができ、「覚えなければ」から「覚え

るべきなのだ」と、心が変化していきました。

ハワイ大学の先生が手を止めながらの丁寧な説明。また、理解しやすい言葉を尽くし、選び通訳して下さった方々、そして、声を掛け合いながら協力し合った先輩、同級生。多くの取り巻く人々のお陰で、ただ漠然としているのではなく自ら参加することが出来ました。

この研修にあたり大勢の先生、先輩の支えがあり、何にも替えがたい経験をさせて頂くことが出来たと実感しています。

これからはハワイ研修で得たものを大切に積み重ねていきたいと思えます。最後に、献体の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

「新しい出会いと温故知新の旅」

50期D組 吉成 圭

実習参加と海外の指圧事情を知る為に参加したハワイ大学研修旅行は、思い出深い「新しい出会いと温故知新」の旅になりました。

五泊六日のスケジュールはボランティア指圧から解剖実習・夜の解剖学と盛り沢山でしたが、石塚校長先

生を始めとする引率・通訳の先生方、因泥先生やハワイ大学のスタッフ等現地の方々のサポートのお陰で実りの多い体験になりました。特に解剖実習では、授業の知識を御献体の生の身体で理解することができ、また通訳という貴重な体験をさせて頂きました。知識が乏しい私を助けて下さった先生方・同窓生に対しても、勉強しなくてはと痛感しました。

そして、愛泉指圧学校三十周年パーティーでは、成功されるまでの因泥先生の経験をお聞きし、大変勉強になりました。

現地の方との出会いや、夜の解剖学での研修という枠を超えた気兼ねない会話から、成長の種を頂きました。ありがとうございました。

49期B組 八島 樹

今回、初めての海外旅行と初めての飛行機だった私は、解剖実習よりも空を飛ぶ事に不安を抱いていました。ハワイに到着してからは、気候や色鮮やかな自然に心がリラックスしっぱなしでした。

解剖実習1日目は内臓系から、2日目はうづぶせにして後背部の筋肉をみましました。

内臓系は苦手なので積極的にメスは持てませんでした。2日目は見たかった



神経、筋肉を解剖することが出来ました。教科書で見える図を直接見て触れるという事は、バラバラだった知識がパズルを組み立てるようになっていく事と似ていました。

途中、何度も「ここをもっと勉強しておけばスムーズに解剖を進めていけるのに」とつぶやく事が多く、これは単純に「勉強不足」だと思い知らされ、とても焦りました。

解剖実習をして一番学んだ事は、意外にも「自分の勉強不足」でした。ハワイに行かなかつたら勉強しようと思う「焦り」や「やる気」が湧いてこなかったと思います。

他にも、ハワイの自然や人のあたたかさに触れて、もっと色々な国を見たいと言う気持ちになり、大嫌いな英語も勉強しようと思えるようになりました。このハワイ解剖実習は、自分を一回りも二回りも成長させてくれました。

このようなきっかけをくれた学校、先生方、ハワイ、そして学校に行かせてくれた両親にとっても感謝しています。

これを読んでハワイ解剖実習に興味を持った方へ、解剖学をこれでもか!というくらい勉強してから行ってください。笑

私は来年も行きたいと思っています。

48期C組 川西翔三郎

ハワイでの体験は、私にとって大変有意義なものとなりました。

人体解剖では、実際メスを握ることができ、まさに手にとって知識を深めることができたわけですね。終わってみると、もう少し時間が欲しいかったです。貴重な時間を過ごせたことを嬉しく思います。

また、2日間の自由行動では、スカイダイビングや観光めぐりやら、ハワイならではの体験をやっばり身を以て体感

し、現地の空気も満喫できました。ただスカイダイビングは有志を募りましたが集まらず、ひとりで行るはめになりましたが。(笑)

指圧ボランティアでは慣れない英語を駆使しつつ大変でした。しかし指先が国境を越え...とは言い過ぎですが、多くの人の笑顔に心地の良い満足感が得られました。そんなわけで、長いようで短いハワイでの生活を楽しめました。

最後に、貴重な勉強の場や楽しいパーティーの席を設けて下さったドクターや因泥先生に御礼を申し上げます。ありがとうございます。



今日より明日へ

同窓生からの便り

37期 岡田 主



日本指圧専門学校、同窓会の御要望に対するご回答。
 (一) 指圧の道を選んだ経緯
 (いざさつ)。
 (1) 人様の健康増進に寄与し、併せて又自己の健康確立も実現し、その結果自利利他の生活を確かなものとする。併せて指圧道の真髄を体得し、自信を持って人様はじめ自分自身や家族の指圧治療につとめ、施術師としての地歩を確立する。
 (二) 現在の指圧業務実施上の状況。
 (1) 宣伝方法
 (イ) 電話帖などに登録記載する。

(ロ) 口こみ
 (2) 技術の向上
 (イ) 定期的に立派な先生方の研修会に出席する。
 (ロ) 指圧協会の夏期大学などに出席する。
 (ハ) 協会支部の例会などに参加し、相互指圧で技術を高める。

(3) 健康及び体力の保持
 体調管理に注意し、指圧は勿論有益な健康法などにも励む。
 (4) 人格の向上
 修養につとめ、立派な人格を涵養し、人様から慕われるような人間になる。

(三) 指圧に対する信念。
 浪越徳治郎先生の「ご遺徳を偲び、「指圧の心母心庄せば生命の泉湧く。」の境地に到達するよう努力する。
 以上
 平成十九年二月七日



35期 中山 節

今から16年前までは、指圧とは、まるで無縁の日々でした。
 「人生10年先を考え計画をたてないと、その時がきてからでは遅い」と勤務先の社長より言われ考えさせられました。家に居ながら人が集まって、しかも趣味と実益をかね、人に喜んでもらえる、そんな仕事があるだろうかと思案しました。いろいろ調べた結果、医療関係しかないのではないかと思いました。そこで訪ねた所は有名な浪越指圧でした。この翌年より私は、この学校に通うことになりました。

いろいろな話が聞けた事、それは私にとって忘れられない良い思い出、又今の自分につながっていると思います。

いつの時代も大切なのは対人間関係ではないでしょうか。画像ばかりの現在で情報もインターネットですませ、人と会話をする機会が少ないように思います。我々指圧師は人間相手ではありません。どんな商売でもそうだと思いますが、一度行ったら又行ってみたいと思つものがないと継続はできません。常に相手の身になって考えられる人になりたいです。技術はもろろん、心身共に治療ができたら最高だと思えます。

現在心を病んでいる人がとても多いようですが、心も体もいっしょにほぐしていかないと楽になりません。楽になれば治療の効果もあがってきます。思いやりの心が大切です。自分が今できる事を精一杯やる、これが私のモットーです。
 NHKカルチャーに来ていた生徒さんで、今フランズに住んでいる人がいます。

その人は、知り合いの人達に指圧をしてあげているそうです。お金を頂かない代わりに物品で頂いたり、地域の人達とのコミュニケーションがとれたりして、誰にでも指圧はとも喜ばれていると言っています。
 資格を持つている我々は自信を持って、どこに出ても恥じることない浪越指圧

「自信」



41期 三村 公明

昨年十一月に第二回同窓会講習会が静岡県富土八伊ッで行われました。
 第一日目は三人の先輩方に対する質疑応答でしたが、その中で
 「あなた方は何故そんなに自分の施術に自信が持てるのですか」
 という質問がありました。私も色々な先輩や同僚達と話をしている時にそう思う事が結構あるので、熱心に聞いておりました。三人

を、日本はもとより世界中の人達に知ってもらいたいです。
 言葉は通じなくても手当てると言う事が、若者男女すべての人に安らぎを与えるすばらしいものだからです。これからも、自分が元気な限り、このすばらしい指圧を続けていきたいです。

の先生方の話を聞いていて思ったのは
 「長年治療を続けてきて、患者の方達から、施術結果が良かったよ、と言われた積み重ねが自信の裏付けとなっている」
 と言っておられる様に思いました。

私も川原先生の下で治療を見ていて思うのは、一つの症状に対する施術方法の構成がしっかりできていて、その時々々の状況に合わせて最適な方法を実施しておられる様に感じています。
 私も先生のやられている事を実行してみるのですが、どうしても詰めが甘い様に思っています。先生からは「微妙な所は教える事が出

来ない」

と言われた事があります。

「武術の方でも「不伝の妙」という教えがあって、師は伝えんとして伝える事かなわざるものあり、弟子は受けんと願いて、受くる事かなわざるものあり」という一節があります。最終的には自分で学びとりなさいと言うことだと思いません。私達としては多くの患者さんでコツ〜と試し、

色々失敗して学びとつていく以外にないのではないかと思っています。それにしても、講習会では、色々先生方が長い時間をかけて取得された技術を我々に教えてくださいます。そういう機会に完全に取得出来ることは不可能でも、勉強させてもらう事は大切な事だと思えますので是非参加される事を御勧めいたします。

「自信」

43期 前田 雅子



初めまして。43期卒業生の前田雅子です。現在は新大塚にて開業しています。

私は入学したときから卒業したらすぐに開業することを目標にしていました。それでも最初はただただ不安でしたが、定職もなかったのだから頑張りしかありませんでした。

開業当初は資金に限りがあったので大きな広告宣伝

し上げます。

在学中に指圧は一生勉強だよと教えられました。今ようやくその意味がわかるようになりました。施術がうまくいった時は勇気ももらい、つまづいた時は経験と反省をいただいています。反省があつて初めて進歩があるのかな〜と思います。

これからの社会情勢を考えると、お客様は無駄なお金を使わなくなるように思います。だからこそ来て下さったお客様が「あここにきてよかった」と言っていただけ、そんな治療師でありたいと強く思っています。また今はストレスを抱えてみえる方も多くなり、

はでせず、連日ポスティングする日々でした。縁あつたお客様には一生懸命施術をする、大切に…。そんな気持ちで精一杯で…。不安定な収入なので仕事はお客様のニーズにお応えして出張や早朝、夜遅くにも対応しました。

そのうちに口コミが広がり、採算が取れるようになったのは三年目になつてからでした。思えば最初のお客様が長く続いて、たくさん助けてくれました。今あるのはひとえに私を信頼して下さったお客様と、信じてくれたお友達です。この場を借りて心から感謝申

浦川杏子先生(16期)が尊父の17回忌で里帰りされた折、4月13日、和民理事長を訪問されました。昨年(2006年)11月、日野原先生がオーストラリアを訪問したとき、メルボルンで浦川先生が指圧をしてあげたときの写真です。日野原先生は指圧の愛好家で、定期的に指圧を受けら

「オーストラリアの浦川杏子先生からの便り」

浦川杏子先生(16期)が尊父の17回忌で里帰りされた折、4月13日、和民理事長を訪問されました。

れており、さすがとても首が柔らかかったのが印象に残っていると話しておられました。(同窓会長 青木宏)



平成20年度 浪越学園 日本指圧専門学校 入学試験案内

| 試験名 | 願書受付 | 試験日 | 試験科目 | 対象/備考 |
|-------------|------------------|-------------------|-----------|-------------|
| ①社会人入学試験 | 9月1日～9月6日 | 9月9日(日) | 小論文・面接 | 社会人(高校卒業以上) |
| ②推薦入学試験 | 10月1日～ 10月18日 | 10月21日(日) | 小論文・面接 | 高校卒業見込み |
| ③一般入学試験 第1次 | 11月1日～ 11月15日 | 11月18日(日) | 国語・小論文・面接 | 高校卒業以上 |
| ④一般入学試験 第2次 | 1月8日～ 1月24日 | 平成20年 1月27日(日) | 国語・小論文・面接 | 高校卒業以上 |

*④の第2次一般入学試験は、第1次一般入学試験で定員に達した場合は実施いたしません。

名物先生の近況



校長 石塚 寛

昭和三十八年に本校に非常勤講師として、解剖学を担当させて頂くようになりまし。当初は日本歯科大学解剖学講座に在籍しておりましたが、次いで東邦大学医学部解剖学講座に移籍しました。その間十五年間非常勤を続けさせて頂きました。徳島大学歯学部創設に当たり移籍し、定年まで二十年間徳島大学に在籍しておりました。この間に本校とは縁をつなげ開校四十周年記念式典、第一回国際指圧大会などいろいろないイベントには参加させて頂きました。(写真)夏期大卒生にも参加させて頂き、卒業生と旧交を温めておりました。

らつしゃいます。

本校では現在指圧研究会、マラソン部、野球部、解剖研究会、英語クラブ、トレーナー部など、現役生徒と卒業生とが一体となつて活動しております。大変良いことだと思っております。

また学校説明会を兼ねての学園祭(平成十九年七月二十一日実施予定)も好評で、アームレスリング、模擬店、仮装コンテスト、ボランティア指圧など、いろいろないイベントを企画し現役生徒は勿論のこと、入学希望者とその父兄、近隣地域の方々、卒業生と多数参加され、一段と盛り上がりま。

ボランティア指圧といえ、老人ホーム等も訪問し、また文京区のふれあいフェスティバル等にも参加し実を上げています。

授業の一環として行っている臨床指圧も受診者に喜ばれ、近隣地域の保健向上に役立つと思っております。



17期 小林 秋 朝

△時代の流れ△

1975年4月、日本指圧学校(旧校名)の講師になつてから、時の経つのは早いもので33年になりました。週1日、通い慣れた富坂警察署、中央大学前の富坂を上り下りしています。往時の街並みは、春日通りも木造二階建てが多くありました。今ではマンションが立ち並び、母校の横の建築現場から工事の音が教室に響いてきます。伝法院界隈の変貌にも、時の流れを感じます。小欄にと原稿を依頼され断りを入れたところ、「順番ですから」に押し切られ、時代の流れを自覚した次第です。



17期 小林 秋 朝

△自身は徳島大学時代には明治鍼灸大学、関西鍼灸短期大学(当時)で指圧とその効用について講義し、また本校に戻つて来てからは第十七回国際指圧大会で指圧の効用についてイタリア・ローマ大学で講義し、名城大学薬学部同窓会の卒業教育でも「薬のいらぬ治療」と題して指圧について講義をしました。

現在鈴鹿健康科学大学の鍼灸科で、やはり指圧についての講義を年に一回続けております。講義の内容の中には勿論本校の指圧研究会の業績の紹介も加えてあります。このように機会ある度に指圧および本校についての広報活動も私の仕事と考えております。

聞の片隅の旅行広告が気になり、もう一度目を通す。行き先は、「当日発表!」が、スコブル好奇心を駆り立てる。初体験のその旅に乗つてみた。旅の名は「新春」旅の福袋。日帰りバスツアー。初詣・花観賞・姿伊勢エビのおみやげも!」の副題と旅費に魅せられて、お正月気分も抜けないポカポカ陽気の1月13日、新宿7・30、満席の大型バス出発。間もなく添乗員の挨拶、「行き先は運転手と私しか知りません。皆様には全て、現地到着5分前にお知らせしますので楽しみに想像してください」に、皆、初笑い。それと3,000円の福袋の予約、「中身は5,000円以上の価値、絶対に損はさせません」の言葉に手をあげた。新宿首都高快速道に入ったら朝食のサンドウィッチとコーヒのサービス、湘南伊豆方面、千葉の房総方面、か、を想像するも、バスの進路は分岐点で次々と我が予想を覆す。10:30、到

着したのは栃木県足利市、「あしががフラワーパーク」広大な庭園には、寒さにめげずアイリス・ヒヤシンス・水仙・おいすみレ・チューリップなどの花が、可憐に咲いていた。お代わり自由の甘酒の接待を受けて散策、特に有名なのは5月上旬、700畝、800畝の大藤棚、長さ80mの白藤トンネルや、きはな藤のトンネル、各種290本の藤など、写真を見ても息をのむ美しさ、その時季また来たいものだ。次の観光地は、群馬県「桐生織物観光センター」と、知らされる。藍染め工房では、藍染めの見学と体験もできる。館内では、各種藍染め製品が販売されている。ここので、昼食は、赤城牛のすき焼き、桑うどん、生湯葉とミニおせち、館内を一巡してから出発。満腹でバスに揺られること45分、添乗員から次の観光地のヒントである「日本七社の一つを告げられるも」誰も当たらず。初詣に着いた所は、1125年創建の「冠稲荷神社」、厄払いの予約が7日までいっぱいだったとか。次は濱も処の「加作」と知らされる。数十種類の試食と椎茸茶のサービス。次への車中、またヒント「都内の駅名と同じ寺」と知らされて、臨済宗の禅寺「吉祥寺」参道に到着。ゆるやかな上りの細い石畳道、山門を抜けて本堂を拝観、石庭と本堂裏を囲む池に三方から滝が流れ落ちる。雪吊り

の松、庭石、一面にうつすらと雪化粧した境内の静寂屈指の名刹ならではのたたずまいに、湯気立つ薬膳茶を手にして、フー、と心が和む。次はバスに乗ること10分、地元「酒蔵、豊国光」(ほまれこつこう)に到着。酒造りの見学と三種の無料利き酒、甘酒サービス、湧き水は、関東名水百選の水でさらに持ち帰り自由、実に美味しい。大吟醸がたっぷり入っているソフトクリームは、コクがあつて大人の味。さて、次は何処へ行くのやら。着いた所は、果実の里「原田農園」。早めの夕食は、ふく鍋・鯛のお刺身・鯛めし・スワイガニー・イチゴ・メロン。試食コーナーは、リンゴとジュース、自家栽培のなめこ汁は、合わせ味噌とあいまって絶品の味。帰路の車中での土産は、酒粕・甘酒・花一輪・花の種・椎茸茶。本日最後のイベントは、8割が当たる大抽選会。景品は、藍染め製品・孫の手・観覧券など、いろいろであった。自分はお饅頭10個入に当選! 帰着した所で最後の土産に伊勢エビを頂いて解散。以上の全て込みで8,480円の参加費は、好奇心を満足させるのに十分でした。

さて近況は、健康に恵まれていることに感謝! 指圧は自宅の治療室、「指圧院 Sanae」フランス語「健康」で続けています。日々、全てに感謝です。

研究発表

下腿指圧刺激による胃電図の変化

◆日本指圧専門学校

学 生 佐藤 広大 浅田 秀男 小井川 隆 指導教員 神田 浩土 渡邊 和雄、石塚 寛
吉永 里恵 加藤 正毅 藤森 一英 大沢 秀雄 森 英俊
山岸 浩二 松本 修 江澤 優子
黒澤 一弘 瀬尾 雅和 田中 功
月足 弘法 中盛祐貴子 古川かおる
(筑波技術大学)

I、はじめに

これまで第22回〜29回の本学会誌において、循環器系¹⁾(心拍数及び血圧の減少、末梢の筋血液量の増大及び皮膚温の上昇)、筋骨格系²⁾(筋の柔軟性の向上・脊柱の可動性の向上)への指圧刺激による効果を報告して来た。

臨牀的に指圧刺激は、内臓機能に働きかけ、機能を正常化するといわれている。そこで、指圧刺激が消化管運動に影響があるのかを、非侵襲的に胃運動を測定できる胃電図を用いて検討したので報告する。

II、実験方法

1、対象

本学学生の健康成人21名で、男性15名、女性6名(平均37.0歳)であった。尚、被験者には予め実験内容を十分に説明し、同意を得て行った。また、実験当日に指圧等の刺激を受けることを避けさせた。

2、実験期間

2006年6月17日〜9月16日

午後2時〜5時

3、実験場所

日本指圧専門学校指圧実技室で行い、実験環境は室温 26.3 ± 1.3 、湿度 $58.3 \pm 12.9\%$ であった。

4、測定機器(図1)

胃電計EG(ニプロ社製)



図1 胃電計EG

を施術した場合に、血圧及び心拍数の減少などの効果³⁾が出ていることから、消化管運動においてはどのような影響を及ぼすか見するために刺激部位を下腿外側部とした。刺激方法は浪越式⁴⁾に従い以下の通り施術をした。

1)刺激部位(図2)

下腿外側部1点目
(足三里相当部位⁵⁾)
下腿外側部6点

2)刺激方法

下腿外側部1点目を5秒圧で3回指圧し、下腿外側部6点をそれぞれ

それぞれ1点3秒圧で4セットを行い、通常圧法(漸増、持続、漸減)で、左右下腿部に施術した。

2名の施術担当者が、圧の程度は被験者が気持ちいいと思える程度で実施した。

6、実験手順

刺激群、無刺激群の被験者に、体調、食事時間、普段の腹部の調子などをアンケート用紙へ記入させ、被験者の状態を確認した。ニプロ胃電計EG取扱説明書どおり測定用の電極を貼り付

安静15分(仰臥位)

計測は、の30分間行い、計測終了後は実験環境や指圧の圧の程度、施術による腹部の調子等に施術)

5、刺激方法
刺激部位の選定は、過去の研究から浪越式基本指圧の下腿外側部

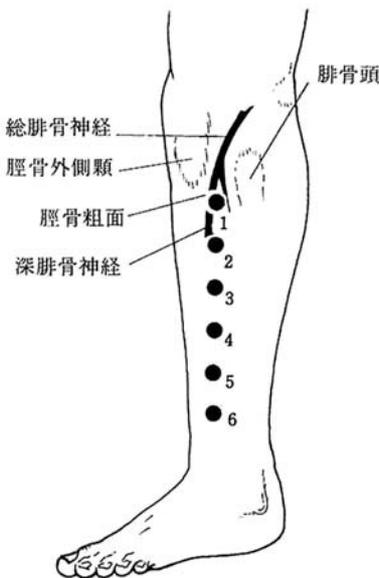


図2 指圧部位(左下腿部)

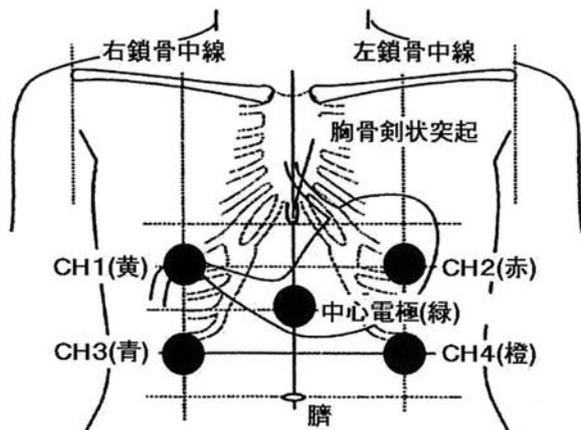


図3 電極位置図

をアンケート用紙に記入させ、確認した。

2) 無刺激群
安静30分間(仰臥位)

3) 実験上の留意点
実験中に両群の被験者に対して以下のことについて監視及び記録した。

覚醒状態であること
体動がないこと
周囲が静寂であること
4) その他
被験者の当日の食事については、予備実験で指圧刺激による反応は満腹時と空腹時を比較しても差はなかったため、本実験では食事時間による制限をしなかった。

7、評価項目と解析対象

1) 評価項目
ドミナントパワー(以下DP)

蠕動運動の大きさを示す指標である。
周波数
1分間あたりの蠕動運動の回数である。

胃の蠕動運動は通常約1分間に3回であり、他の同様な論文¹⁾からそのキーを正常範囲としていることから、遅波(0以上2未満)、正常波(2以上4以下)、速波(4より大きく9以下)と分類した。

2) 解析対象データ
施術前安静時にDPの変動が少

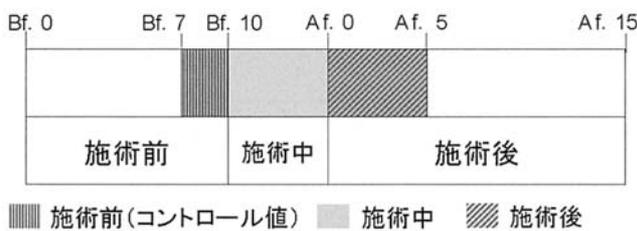


図4 評価区間

なくなつたものを対象とし、その対象は安静時7分時点と10分時点のDPの差が5%以内のものとした。その結果、刺激群21名中18名、無刺激群6名中6名が解析対象データとなった。

3) 評価区間(図4)
胃電図は以下に示す刺激前・中・後を解析した。

施術前(コントロール値): 施術直前3分間の平均値
施術中: 施術中5分間の平均値
施術後: 施術直後5分間の平均値

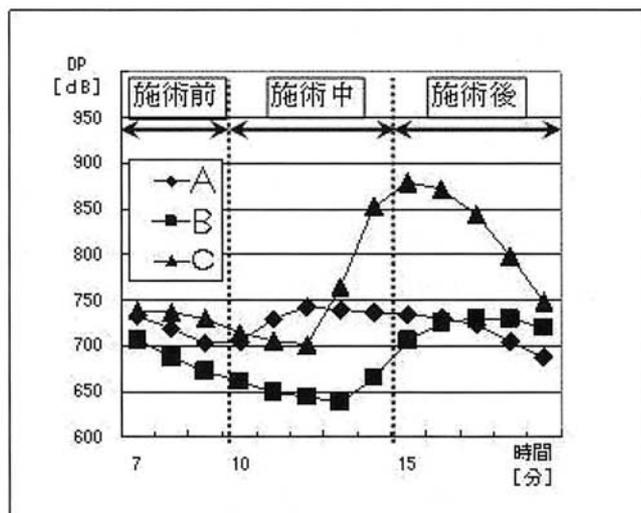


図5 DPの反応典型例(刺激群)

平均値
コントロール値は、施術前安静10分間において、データのばらつきが見られなかった時間帯である

表1 DPのピーク比較

| | 施術中 | 施術後 |
|------|-----|-----|
| 刺激群 | 3 | 12 |
| 無刺激群 | 2 | |

(単位: 名)

表2 各チャンネルのDPの比較

| | 施術中 | 施術後 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| CH 1 | 0 | 14 | 14 |
| CH 2 | 2 | 13 | 15 |
| CH 3 | 0 | 15 | 15 |
| CH 4 | 1 | 10 | 11 |

(n = 18)

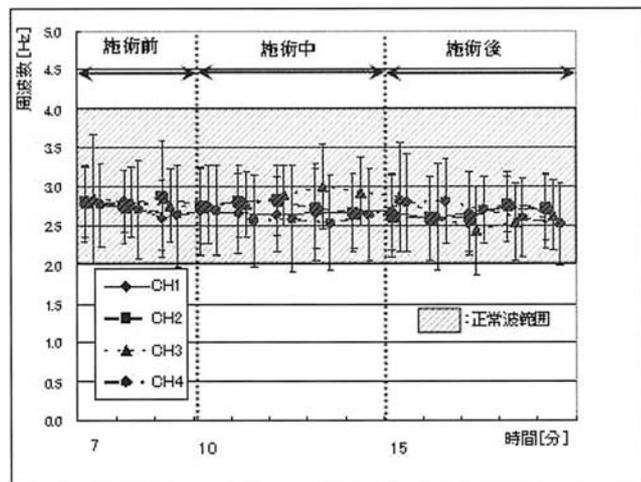


図6 刺激群

7分から10分のデータとした。
4) 統計処理
周波数にて、各チャンネル間において平均値を三元配置の分散分析

の後、F分析を用いて多重比較検定をした。有意水準は5%未満とした。

表3 正常波内で推移した人

| 電極 | 無刺激群 | 胃刺激群 |
|------|-------|---------|
| CH 1 | 3 / 6 | 16 / 18 |
| CH 2 | 4 / 6 | 15 / 18 |
| CH 3 | 3 / 6 | 14 / 18 |
| CH 4 | 4 / 6 | 15 / 18 |

(単位: 名)

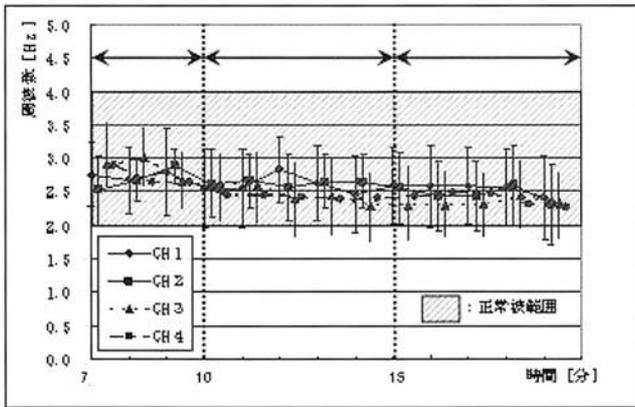


図7 無刺激群

表4 各チャンネルでの正常波範囲外の推移

| チャンネル | 変化 | 例数 | | |
|-------|---------|-----|-----|-----|
| | | 施術前 | 施術中 | 施術後 |
| CH 1 | 施術中変化 | - | - | 1 |
| | 施術中・後変化 | - | - | 2 |
| | 施術後変化 | - | - | 1 |
| CH 2 | 施術中変化 | - | - | 1 |
| | 施術後変化 | - | - | 2 |
| CH 3 | 施術中変化 | - | - | 2 |
| | 施術後変化 | - | - | 2 |
| CH 4 | 変化無 | - | - | 1 |
| | 施術中変化 | - | - | 1 |
| | 施術中・後変化 | - | - | 1 |
| | 施術後変化 | - | - | 2 |

- : コントロール値と同じ周波数帯 : 変化

表5 正常波範囲外の推移

| | 施術前 | 施術中 | 施術後 | 刺激群 | 無刺激群 |
|---------|-----|-----|-----|--------|--------|
| 変化無 | - | - | - | 1 / 12 | 0 / 10 |
| 施術中変化 | - | - | - | 4 / 12 | 3 / 10 |
| 施術中・後変化 | - | - | - | 0 / 12 | 3 / 10 |
| 施術後変化 | - | - | - | 7 / 12 | 4 / 10 |

Ⅲ、結果

1、ドミナントパワー (DP) の比較

無刺激群では、6名中2名、刺激群では、18名中15名がコントロール値に対して、DPの増加が見られたことから、刺激群がDP増加に優位である。

さらに、DPのピークについて

刺激群中のDP増加15名をみると、施術中5分間に3名、施術後5分間に12名がピークを迎えたことから、施術後にDPのピークが出現する傾向が見られた(表1)。またDPの反応の典型例については図5に表す。

各チャンネルのDPの比較をしたところ、コントロール値に対してCH1で14名、CH2で15名、CH3で15名、CH4で11名がDPの増加が見られた。また全てのチャンネルにおいて、施術後にDPのピークが見られ、CH1〜3においては、その中でも優位を示した(表2)。

2、周波数での比較

1) 平均周波数の経時の変化
被験者全員の平均周波数の経時的な変化を図6、図7に示す。以上の図より、男女差や胃の状態に関わらず、各チャンネルの周波数のデータに対して、分散分析を行った結果、経時的に有意差が認められず、正常波範囲内で推移する傾向がみられた。しかし若干、無刺激群では刺激群より周波数は減少傾向にあった。

2) 周波数の変化
個々に周波数の変化を検討すると、実験中、正常波範囲で推移した人は、表3の通りとなった。また、比較対象としては、DPの評価と同様にコントロール値に対する施術中及び施術後に変化した人数とした。

正常波範囲外で周波数が推移した例の結果を表4に示した。表4より、全チャンネルにおいて見られた傾向を表5に示した。以上から、正常波範囲外の推移

を、推移した例より施術後に周波数の変化がみられたものが刺激群では12例中7例と優位となり、DPの増加傾向と同様に施術後に変化する傾向がみられた。

Ⅳ、考察

下腿部の指圧刺激によって胃腸運動が促進したことから、消化管運動が促進したと考えられる。この反応の機序として、胃支配の迷走神経活動の亢進、あるいは交感神経活動の抑制の可能性が予想される。

佐藤らは、麻酔ラットの胃運動に対するピンチ刺激¹²⁾または鍼刺激¹³⁾による反応と神経性機序

を詳細に報告している。それによると、腹部への刺激によって、脊髄分節反射性に胃支配の交感神経活動の興奮を介して胃運動は抑制されるのに対し、後肢への刺激では、上脊髄反射性に胃支配の迷走神経活動の興奮を介し、胃運動は軽度促進することを明らかにしている。したがって、今回の健康者の下腿部指圧刺激による胃電図の反応の機序も、種差や麻酔の有無などの条件の違いはあるものの、同様の可能性が十分に考えられる。

野口らは¹⁴⁾、麻酔ラットの十二指腸運動は後肢足蹠への鍼通電刺激によって促進することを報告しており、今回の下腿部指圧刺激に

よって胃運動に加えて十二指腸や小腸運動にも影響を及ぼした可能性も考えられる。今後、指圧刺激による腸管運動に及ぼす影響についても検討する必要がある。

胃電図の電極を腹部に設置するため、指圧刺激によってアーチファクトの混入の可能性が高いと考えられたため、今回は体幹部への指圧刺激を行わなかった。しかし今回の下腿部指圧刺激による胃電図のD Pの増加は施術後に観察されたため、今後は体幹への指圧刺激の影響も検討していきたい。

V、結語

健康成人を対象とした今回の実験で以下ことが明らかになった。

下腿外側部への浪越式指圧刺激によつて、ドミナントパワー(D P)の上昇が認められた。また、周波数は正常波内で影響を受けなかった。

稿を終えるにあたり、本実験に協力して頂いた本学学生及び教職員諸氏に心より感謝の意を表す。

参考文献

- 1) 小谷田作夫他：指圧刺激による心循環系に及ぼす効果について、東洋療法学校協会学会誌22号；40～45、1998
- 2) 井出ゆかり他：血圧に及ぼす指圧刺激の効果、東洋療法学校協会学会誌23号；77～82、1999
- 3) 蒲原秀明：末梢循環に及ぼす指圧刺激の効果、東洋療法学校協会学会誌24号；51～56、2000
- 4) 浅井宗一他：指圧刺激による筋の柔軟性に対する効果、東洋療法学校協会学会誌25号；125～129、2001
- 5) 菅田直記他：指圧刺激による筋の柔軟性に対する効果(第2報)、東洋療法学校協会学会誌26号；35～39、2002
- 6) 衛藤友親他：指圧刺激による筋の柔軟性に対する効果(第3報)、東洋療法学校協会学会誌27号；97～100、2003
- 7) 田附正光他：指圧刺激による脊柱の可動性及び筋の硬さに対する効果、東洋療法学校協会学会誌28号；29～32、2004
- 8) 宮地愛実他：腹部指圧刺激による脊柱の筋の柔軟性に対する効果、東洋療法学校協会学会誌29号；60～64、2005
- 9) 浪越徹：完全図解指圧療法普及版、日貿出版社、東京、1992
- 10) 東洋療法学校協会編：経路經穴概論、医道の日本社、神奈川、1992
- 11) 下野昌幸・長谷川林秀：胃電図の理論と実際小児外科vol.37 no.4、2005
- 4 特集機能性消化管疾患
- 12) Kamejari H, Sato A, Sato Y, Simpson A.: Neural mechanisms of reflex facilitation and inhibition of gastric motility to stimulation of various skin areas in rats. *J Physiol*. 294:407-18, 1979
- 13) Sato A, Sato Y, Suzuki A, Uchida S.: Neural mechanisms of the reflex inhibition and excitation of gastric motility elicited by acupuncture-like stimulation in-anesthetized rats. *Neurosci Res*. 18:53-62, 1993
- 14) Noguchi E, Ohsawa H, Tanaka H, Ikeda H, Aikawa Y.: Electro-acupuncture stimulation effects on duodenal motility in anesthetized rats. *Jpn J Physiol*. 53:1-7, 2003

寄付金賛助者ご芳名

同窓会会員の皆様から

寄付金を頂戴いたしました。

平成十八年度 三二七件

一、〇二六、三四八円

御芳名掲載をもって御礼と領収の証とさせていただきます。○数字卒業期(敬称略、順不同)

☆貳万壱千三百四十八円

⑧小野耕

☆貳万円

③丸井秀人②井上征夫

☆壱万八千円

⑩佐藤喜久子⑨小熊里子

☆壱万四千元

④内村貴仁

☆壱万三千元

⑩丸山真一

☆壱万壱千円

⑩小林秋朝

☆壱万円

③横川純夫②畑中糸美①菊地和江②稲場豊①池永卓雄

②福田慎吉③山田紀美子②鶴見せつ子①川本博子③柴田芳市③稲場啓護④田附正光④萩原忠雄⑥菊川一也⑩佐藤一美④青山敏彦④伊藤次雄③小倉義夫

☆八千円

⑨勝尾恵三③山下茂幸③佐藤清子⑧布施ソヨ③金子孝夫⑦川原善次郎⑨小野寺英男⑩高野正之②田代和平④菅野不二③森田修一④藤瀬良子④松本淳⑧西嶋操③坪井湜⑦山崎克巳

☆六千元

②森岡忠司

☆五千元

⑨青木宏⑨小林義孝②鳥山久子②梅津秀之助④石原博司⑧赤澤えい⑦稲生妙子②林なを②村井美枝子①後藤和江①須田麻紗子①上野智章⑤和田常男①飯島幸雄⑥原田隆弘⑧井芹幸夫②遠藤ミツ②高坂貞造④村越い子③石川明子②沢畑碩亮①山岡祥宏②西村れい子①船津昌亮⑦襲田佳男②海上富雄④田澤千代子

☆三千元

③岩見和夫②小美濃隆⑥神田豊美②加園政夫③高橋宏①上村道子④相澤寛和③立野忠義③問田十喜子②横田富康③粟村輝子③中山節②篠原よ志子③岡本一宏④中

島寅雄⑧原忠雄④五十川直孝③伊藤美智子⑩小出忠志

②関根康博④山川友枝②中島喜一②馬場正義①三好街子①佐藤信②本名文子④岡崎京子④田沢佳世子④高山益太郎③広明文夫③山下泰治③梅津洋介②飯島治雄③海上順行④小林勇雄④門田益子②笠原正親③片岡和美

②前田英男⑦内城勇造②嶋宿照男②向井豪④上田康弘①上田桂三①国井トモ子①日野紘造④田村嘉明①國田イト子②安倍和夫③木村龍一郎②高田とし子③池田知以子②武藤圭子②相野谷眞

②有田純夫⑦釘崎幸義②関伊智朗②栗原美子③山越健司④伊藤暢晃③大西正悦⑦鈴木篤②黒澤信男③宇佐美康夫②木内行雄①大日方子③石塚恰子②多田博子②皿井千代子④瓦和夫③齊藤鉄夫③福田千枝美

☆貳千円

④永山琴奈子⑨鈴木玉子④鈴木喜也④山岸みち江③安藤富士男①松嶋文介⑦万城由美子⑦岡田主④塚田邦広④広川良昭②高木二朗太①天海誠⑦大石たま子④大場裕之④三村公明①山田さん

④黒田佳男③宮永喜実枝⑦糸井正子②糸井主好④伊澤正晃④原田秀樹②松本輝男

④谷口雛子④松本勝美①瀬戸玲子⑦樋口光夫③筑後和夫③岩下禎夫③中村和泰②平澤紫郎⑧鎮目征幸④菊田純一⑧中村フミ子④大森紀代子④小谷田作夫②米倉裕子⑧田浦資斌④中村幸夫④古川且昇②宮脇利博

☆壱千円

⑤相澤金雄④千原智義④石田進一郎②渡辺静江②野口雅子①井上善弘③小松千加

④黒崎脩治①比留間民子③本間陽一②関智四郎③花垣浩美①福田タカ子③黒田隆之④山田滋③齊坂京子④高亀義雄②二宮達夫⑦内山直行⑧山坂良子①竹村ナミ

①小坂八郎②渡辺美和子②石田光吉②田島公代②久保山百合子②関森昭直⑦川畑女恵子④入江徹②小池せつ子⑥石原和信①村松カチ

④石井勝雄②富田芳平③平野キミイ④小松和幸③田中利③高木恒徳⑧中島準蔵

③岡部みどり④高柳茂男③下田政一③木下裕司④鈴木喜美子③鶴田弘二③細田倫宏③矢野和美④山崎涉②石井ヒサエ①上野欣二③西井一志④小野寺よし子④松永伸夫⑨吉田美代子①川村達伸⑦小松せつ子②大庭新治

①三好英子③岡峰有紀②岡田悦子③寺田かおり⑥鈴木

ふみ子①高橋昌子⑨竹之内恰子①平井浩子①平井伸穂

③玉野栄子④小野朋子④町野直美②工藤文宏④新聞毅

②高澤佐恵子③山崎信子②田島貞次郎④小室史郎④葛原直樹⑥藤原モト⑧藤井正弘②新井兼丸⑧小笠原治②伊藤義昭③小泉鍼夫④中塩千穂子③天野幸好⑧藤井トシ子②浪越淳④太田伸行①廣村いと③高城敏史③福安志泰①小松崎義雄②小松崎ツネ⑦高野文②岩切秀樹④岩井聡⑤西迫大作④菊地俊紀夫④西山ゆかり③菊地俊秀④平井正子②川村泰司④岡野昭④本間博②川村美都子②井谷裕行④重森祐二④真船智子②小川久子③高野賀史②鈴木さん②柴田智美④山口和夫①坂本明子③小峰敏美④高内英美④萩原嘉寿代④瀬田松悦子③高橋耕作②瑞豊④平石生嗣①藤井宜政③松本喜照③水口伸幸

④船田弘子①石原雪江④西海泰子③尾崎正美④當麻康江③中村秀治①佐藤一雄②玉川隆②岡本草苑子④高野由理③平尾清一③田端哲郎

②小原俊政①森田昭代⑨川上よし③末永洋子①土屋西治①阿部はるみ②藤原博①戸来みや子④宮島恵美子

編集後記

伝通院の指塚の桜も緑に染まり、穏やかな初夏を迎えようとしています。暖冬と言われた今年の冬ですが、そんな初春のある日、なんと東京に初雪が舞い降りました。この雪はまるで移り変わる年度末の「なごり雪」とも感じられるものでした。皆様、風邪などお召しにならずお元気にお過ごしでしょうか。

今年も第五十一期の新入生を百二十名迎えました。本校も新学期を迎え活気に満ち溢れることでしょう。新入生にとつて入学して良かったと思つて頂ける学校でありたいと思います。

今回お届けさせて頂きました同窓会報は第二十八号になります。今回は新会報委員として初めての発行となりました。ハワイ因泥先生の特集をはじめ、平成十八年度通常総会での特別講演、ハワイ研修、実技講習会、同窓生からの便り等、バラエティーにとんだ内容となっております。楽しんでお読み頂けたらと思います。

平成19年度 通常総会・懇親会

一、と き：平成19年 6月10日(日) 10時

二、と ころ：茗溪会館 2階 文京区大塚 1-5-23 電話03-3943-0321

交 通：地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅下車 2分 / JR池袋駅より車 5分

三、内 容：・総会(10:00~10:50)

活動報告、会計報告、監査報告、活動計画、予算案

・記念講演(11:00~12:20)

「マニュアルに始まって、マニュアルを超える」

講 師 横浜市立大学国際総合科学部 非常勤講師

独立行政法人 中小企業基盤整備機構関東支部

新連携支援プロジェクトマネージャー

神奈川県産官学連携推進室コーディネーター

慶応義塾大学FSC研究所研究員(電気自動車研究室) 柳沢 剛 先生

・懇親会(12:20~14:30)

四、懇親会費：8,000円(当日納金も可)

五、申 込：会報誌に同封されておりますハガキにて出欠をお知らせ下さい。

また、懇親会参加の方は会費8,000円を同封の郵便為替用紙にて事前に納めていただきますと、受付事務の混乱が防げますのでご協力お願い致します。

日本指圧専門学校同窓会

決算書・予算案

自 平成18年 4月 1日
至 平成19年 3月31日

貸借対照表

平成19年 3月31日現在

| 収 入 の 部 | | | |
|-------------------|------------|------------|------------|
| | 18年度予算 | 18年度決算 | 19年度予算 |
| 前年度より繰越 | 12,729,829 | 12,729,829 | 13,542,662 |
| 入 会 金 | 1,755,000 | 1,785,000 | 1,800,000 |
| 運 営 費 | 1,500,000 | 1,490,000 | 1,500,000 |
| 総 会 費 | 1,300,000 | 832,000 | 1,300,000 |
| 預 金 利 息 | 250 | 1,730 | 1,700 |
| そ の 他 収 入 | 30,000 | 262,000 | 250,000 |
| 寄 付 金 | 1,000,000 | 1,026,348 | 1,000,000 |
| 収 入 合 計 | 18,315,079 | 18,126,907 | 19,394,362 |
| 支 出 の 部 | | | |
| | 18年度予算 | 18年度決算 | 19年度予算 |
| 総 会 費 | 1,500,000 | 1,379,067 | 1,500,000 |
| 講 習 会 費 | 500,000 | 459,525 | 800,000 |
| 会 報 発 行 費 | 1,500,000 | 1,234,110 | 1,500,000 |
| 通 信 費 | 250,000 | 145,714 | 500,000 |
| 印 刷 費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 渉 外 費 | 300,000 | 300,000 | 500,000 |
| 交 通 費 | 300,000 | 195,980 | 300,000 |
| 慶 弔 見 舞 金 | 100,000 | 18,171 | 100,000 |
| 事 務 用 品 費 | 30,000 | 5,848 | 30,000 |
| 雑 費 | 50,000 | 5,568 | 50,000 |
| 情 報 管 理 費 | 50,000 | 4,262 | 100,000 |
| 役 員 会 議 費 | 50,000 | 0 | 50,000 |
| 備 品 費 | 50,000 | 0 | 50,000 |
| 設 備 使 用 料 | 50,000 | 36,000 | 50,000 |
| 予 備 費 | 500,000 | 0 | 500,000 |
| 新 規 事 業 引 当 金 繰 入 | 800,000 | 800,000 | 800,000 |
| 支 出 合 計 | 6,130,000 | 4,584,245 | 6,930,000 |
| 次 年 度 繰 越 | 12,185,079 | 13,542,662 | 12,464,362 |

| 資 産 の 部 | | 負 債 及 び 正 味 資 産 の 部 | |
|---------------|------------|---------------------|------------|
| | 金額 | | 金額 |
| 現 金 | 225,520 | 新 規 事 業 引 当 金 | 2,480,000 |
| 東 京 三 菱 普 通 口 | 5,797,142 | (正 味 資 産 の 部) | |
| 郵 便 貯 金 口 | 10,000,000 | 余 剰 金 | 13,542,662 |
| 合 計 | 16,022,662 | 合 計 | 16,022,662 |

損益計算書

自 平成18年 4月 1日
至 平成19年 3月31日

| 収 入 の 部 | | | |
|-------------------|------------|------------|-------------------|
| | 18年度予算 | 18年度実績 | 内 訳 |
| 前年度より繰越 | 12,729,829 | 12,729,829 | |
| 入 会 金 | 1,755,000 | 1,785,000 | 50期 15,000円×128名分 |
| 運 営 費 | 1,500,000 | 1,490,000 | 2,000円×745名分 |
| 総 会 費 | 1,300,000 | 832,000 | 84名 御祝儀160,000円 |
| 寄 付 金 | 1,000,000 | 1,026,348 | 327名 |
| 預 金 利 息 | 250 | 1,730 | 預貯金利子 |
| そ の 他 収 入 | 30,000 | 262,000 | 名簿売上、講習会参加費 |
| 収 入 の 部 合 計 | 18,315,079 | 18,126,907 | |
| 支 出 の 部 | | | |
| | 18年度予算 | 18年度実績 | 内 訳 |
| 総 会 費 | 1,500,000 | 1,379,067 | 茗溪会館 1,195,400円 他 |
| 講 習 会 費 | 500,000 | 459,525 | 富士ハイツ 271,274円 他 |
| 会 報 費 | 1,500,000 | 1,234,110 | 会報27号 株式会社 他 |
| 通 信 費 | 250,000 | 145,714 | 小石川郵便局 他 郵送料、ハガキ代 |
| 印 刷 費 | 100,000 | 0 | |
| 渉 外 費 | 300,000 | 300,000 | 指圧協会、母校 祝い金等 |
| 交 通 費 | 300,000 | 195,980 | 運営委員会交通費 他 |
| 慶 弔 見 舞 金 | 100,000 | 18,171 | 指聖供養塔生花 弔電等 |
| 事 務 用 品 費 | 30,000 | 5,848 | 今井文具店 ファイル他事務用品 |
| 雑 費 | 50,000 | 5,568 | 委員会お茶代 |
| 情 報 管 理 費 | 50,000 | 4,262 | 名簿修正費手数料 |
| 備 品 費 | 50,000 | 0 | |
| 役 員 会 議 費 | 50,000 | 0 | |
| 設 備 使 用 料 | 50,000 | 36,000 | 母校 |
| 予 備 費 | 500,000 | 0 | |
| 新 規 事 業 引 当 金 繰 入 | 800,000 | 800,000 | |
| 支 出 の 部 合 計 | 6,130,000 | 4,584,245 | |
| 次 年 度 繰 越 | 12,185,079 | 13,542,662 | |

平成 19年 3月31日
日本指圧専門学校同窓会
会 長 青 木 宏 印
会 計 高 橋 雄 輔 印
監 査 荷 田 牙 子 印
柴 田 芳 市 印
田 澤 千 代 子 印